

偏見、思い込み

広島県

黒瀬剣道教室

小学6年 磯 辺 彩 月

「こんな小さい女子が相手か～。相手してやるから全力でかかってこいよ～。」

張り詰めた空気の中、信じられない言葉を言われた。まさかこの日本武道館で……。

この夏、四年生二人と一緒に全国大会へ出場した。私は六年生だが、身体が小さく、クラスの背の順はいつも一番前。対戦相手は全員が低学年だと思ったのだろう。いつも間違えられるから、間違えられることが悲しいとは思わなかった。ただ、試合前に、わざわざ私に言いにくる対戦相手にはビックリして、監督と目が合ったが、二人とも言葉がでなかった。これくらいの気持ちの強さが全国大会で必要なんだと思う出来事の一つだった。

試合が始まるまでの待ち時間が長ければ長い程、緊張感が高まる。でもこの日は違った。「やってやろうじゃん！」

この日にむけて励んできた稽古が頭の中を走馬灯のようにはじめめぐり、力がどんどん湧いてきた。最初の挨拶から相手の顔をずっと見つめ、集中した。私に求められるのは二本勝ち。身体のどこからかはわからないけど、奥の方から熱く燃え上がるような気持ちになり、感情が高ぶった。自分の試合になると、「始め！」の合図と同時に、自分から先に相手の間合いに入り勝負した。女子だからスピードも遅いと思った？小さいから力がないと思った？と自分の気持ちを力に変えることが、生まれて初めてできた。相手もあわてていた様子だった。そのまま攻め続けた。自分でも闘志が止まらなかったのを今でも覚えている。無事に二本勝ちした時、監督の顔を見た。涙を浮かべて拍手をしてくれていたのが忘れられない。監督に私の気持ちが伝わっていたんだと察した。見えない壁を監督と一緒に乗り越えた気がした。結果としてチームは初戦で敗退したけれど自分の全力を出し切ったと堂々と言う事ができた。私にとって、最高

の全国大会となった。

見た目で判断されることは悔しい、けど実際、私も見た目で判断することがよくある。いつもニコニコして優しいおじいちゃん先生。稽古をする前は歩くスピードも私より遅く、稽古をしても大丈夫かな？と心配になるけど、いざ、構えた時、先生は実際より大きく見えて、何を打っても返されそうな気がする。そして「強い。」

相手を知ることで、無意識の偏見や思い込みをしていたことがわかる。冒頭の言葉を発した男の子も内面を知ればいい人かもしれない。仲良くなれるかもしれない。なんて考えることもできる。

私の家では、剣道を木に例えている。基本は幹、技が枝、心は葉っぱ。今の私は幹はまだ細くて、枝も少ないが、葉っぱはたくさん芽吹いている。そんな状態だと思う。

これから、中学、高校、大学と進学し、大人になり、剣道の指導者という立場になった時、一人一人の個性を伸ばせる教育ができる先生になりたい。剣道界を担っていく存在になりたいと思う。

将来、私が、どんな考えをもって、剣道に取り組んでいるのか。しっかりとした幹、たくさんの枝、生い茂る葉っぱの大木になれているのか。とても楽しみだ。